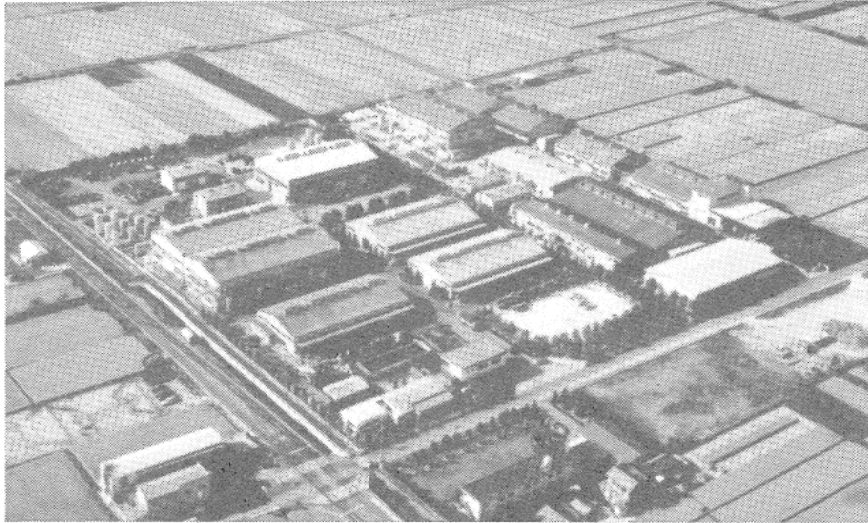




企業紹介

大同塗料株式会社

吉 田 勉



緑に囲まれた生産の主力 滋賀工場（敷地33000㎡、月産3000トン）

1. 会社の概要

社 名 大同塗料株式会社
 創 業 昭和7年
 設 立 昭和12年1月
 資 本 金 1億円
 代 表 者 取締役社長 吉治 仁義
 事業内容 ①各種合成樹脂塗料の製造販売
 (特殊塗料)
 プールコート (プール内面コーテ
 イング用塗料)
 ユカクリート (各種フローア用塗
 材)
 ハイアルマ (鋼板屋根用長期重防
 蝕塗料)
 ハイカラー, ロイヤルカラー (超
 高級看板用カラーペースト)
 テントカラー (各種テント, シー
 ト用塗料), その他

[汎用塗料]

建築用, 金属製品用, 電気器具用,
車輻用, その他

②特殊塗装工事及び関連工事 (老朽
コンクリートリフレッシュ工事
他)

売 上 高 年間80億円

従 業 員 数 200名

所 在 地

本社・工場 大阪市淀川区三津屋北2-14-18

〒532 ☎06 (308) 6288

滋 賀 工 場 滋賀県守山市三宅町561

支店・営業所 東京, 名古屋, 福岡, 広島,
札幌, 仙台, 滋賀, 四国

2. 当社のあらし (沿革と現況)

当社は昭和7年, 塗料の興隆期に, 現会長の
吉治仁代次が建築用他各種塗料の製造, 販売を
業として創業したもので, 昭和12年には大同塗
料(株)となり, 15年には本社, 工場を現在地に移

*吉田 勉 (Tsutomu YOSHIDA), 大同塗料株
式会社, 総務部長

しました。その後第2次大戦中の企業整備にも残存し、戦後は逸早く事業を再開、26年にはJIS表示許可工場になりました。また営業拠点として、31年までに東京、福岡、名古屋の各店を開設、それ以降も漸次営業所を増設しました。

昭和20年代の終りから30年代にかけて、次々と優れた合成樹脂塗料が出現し、急速に普及しましたが、当社も積極的にそれ等と取り組み、合成樹脂ワニス工場や鉄筋3階建の近代的な合成樹脂塗料工場を建設しました。

昭和40年代になり、日本経済が華やかに高度成長を続ける中で、塗料工業も目覚ましい発展を遂げました。この間41年には、当社はその将来性をおかれ、大阪中小企業投資育成(株)の33社目の投資対象企業に選ばれましたし、44年には防衛庁の認定工場になりました。また、昭和45年(第1期)から49年(第3期)にかけての滋賀の新工場建設は、塗料需要の好調期にうまくマッチし、業績面に大きく寄与しました。この滋賀工場はその後逐次増強し、60年にも新鋭工場棟1棟(1,000㎡)を建設、現在では当社生産の中核となっています。

しかし、このような塗料産業の急成長期に、当社は既に今日の業界の過当競争を予見し、独自の路線を歩み始めました。即ち、量産の汎用品については一品日本一を目指す一方、「特殊な用途に的を絞り、深く掘り下げる。……量より質への転換。」という特殊化、専門化の方向を打ち出しました。

この基本方針に沿い、汎用品の中で徹底して生産を合理化した「速乾性汎用錆止ペイント」は、業界で1~2位を争う商品に成長し、どこの塗料店でも必要なこの塗料は、販売代理店の開拓、強化の武器にもなりました。次に特殊化路線の面では、駐留軍のきれいなプールを見て、「いずれ日本にもカラフルなプールの時代がくる。」という吉治仁義社長(昭和37年専務、49年社長に就任)の発想をもとに、研究、開発した「プールコート」を手初めに、次々と特殊塗料を開発、数多くのヒット商品を生み出しました。

「プールコート」はその性能の優秀さに加え、塗料をつくり売るだけでなく塗装工事まで引き

受けたり、大手のアルミプールメーカーと提携したり、塗料メーカーとしては例のない販売手段を講じました。折から文部省の国民皆泳の方針のもと、学校プールを初め、スイミングスクールやレジャープールが次々と建設されるという水泳ブームが到来、「プールコート」の普及は目覚ましく、シェア80~90%と市場をほぼ独占しました。今ではプールの種類はコンクリートモルタル、アルミ、鉄、ステンレス、樹脂等多岐にわたり、新設、改修、塗替えを含め、塗装需要は安定しています。当社ではあらゆる種類のプールの塗装改修工事をシステム化した「プールパックシステム」を完成、ユーザーの要望に備えています。

以上、「プールコート」の例に見られるように、当社では「単に塗料(ハード)をつくり売るだけでなく、施工ノウハウ(ソフト)を売ることがより大切。」としてプールのみでなく、各種のフローアや屋根、その他特殊塗装の分野で、プール塗装日本一の実績を背景に、協力塗装業者を全国的に組織し、施工体制を整備してきました。同時に特殊分野における多年にわたる技術の蓄積、施工ノウハウ、施工体制を基礎として、的を絞った効率的な技術開発を進めながら、新しいニーズに対処してきました。

また最近では、塗料、塗装の分野にとどまらず、更に一步進め塗料周辺にまで事業を展開しています。その一つがここ数年来手掛けてきたコンクリート構造物のリフレッシュ工事です。海砂の使用等に起因すると見られるコンクリート構造物の剝落現象が各地で起きましたが、当社では独自の技法でこれと取り組み、コンクリートの剝落防止や補強工法を開発、「コンフレッシュシステム」として体系化しました。既にこの工法により、阪神高速道路、西名阪自動車道、阪和自動車道他近畿一円の高速道路の高欄や橋脚等の補修工事で多くの実績を残しています。

このように当社は永年かけて蓄積した施工ノウハウを武器とする企業、即ち「技術と工場をもったエンジニアリング会社」へ徐々に脱皮を図っており、総じて堅調な業績を維持してきました。その結果会社の内容は漸次充実し、昨春秋には取引銀行のお奨めもあり、財務内容他多

面にわたる厳しい資格基準をクリアーして、私募債を発行しましたし、また、この1月には「中小企業研究センター賞」を受賞しました。この賞は社団法人中小企業研究センター（調査研究事業と優良中小企業の表彰を事業とする非営利団体で、主務官庁は通産省、中小企業庁）が、年に1回、全国各地の中堅中小企業の中から、経営合理化、技術開発、その他経済的、社会的にすぐれた成果をあげた企業を顕彰するもので、過去の受賞企業には、第1号の京都セラミック(株)を初めとして、(株)田葉井製作所、(株)長府製作所、三田工業(株)、日本全薬工業(株)等の著名企業があり、今年も維薦母体である科学技術庁、通産局、商工会議所、中小企業投資育成(株)から推薦を受けた25社の内12社が表彰を受けました。

3. 特殊塗料の一部のご紹介

当社のあらまは以上のおりですが、「プールコート」と並ぶ代表的な特殊塗料2点をここに紹介いたします。

①ハイアルマ

従来、工場等の鋼板屋根の塗替えには一般的なトタンペイントが使われてきましたが、3年も経てば再塗装が必要で、手間代が大変高くつきました。カラートタンの塗替えが全国的に増えるにつれ、7～10年もつ耐久力の優れた塗料が社会のニーズとなりました。「ハイアルマ」はこれに答え得る塗料で、トータルコストでは大変経済的です。他社に先駆けること10年、実績も既に1000万㎡を超えて

います。防水、防音、断熱、耐塩害等の特性もあります。皆様の大切な工場、倉庫、事務所等の屋根の長期保全に最適の塗料です。この他に、カラートタン、亜鉛引鉄板、カラー石綿スレート、セメント瓦屋根等に巾広く使える万能タイプの長期耐久性屋根用塗料「ハイルーフ」が姉妹品としてあります。

②ユカクリート

各種建造物の床を初めとして、歩道やプールサイド等にも巾広く利用できる塗床材で、いろいろの用途に対応できるよう種類も豊富に揃えています。塗床材に求められる厳しい性能、即ち耐摩耗性、歩行性（硬い、軟らかい、滑り等）、汚染性、耐薬品性、美観等を備えています。その中の一つ、カラーファルト#300は、水系一液型ながら性能は溶剤系に劣らず、コンクリート、アスファルトどちらにも適応でき、且つ誰でも簡単に塗れるという特長をもちあわせています。企業内の美化運動にご活用いただける商品の一つです。

4. む す び

当社のあらましとして、製品開発、会社運営の基礎に流れる考え方等について述べさせていただきました。今後も引き続き単なる塗料製造会社から脱皮し、「技術と工場をもったエンジニアリング会社」を目指し、個性ある異色の企業として体質強化を図っていく所存です。